

(別記)

令和元年度豊橋市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

豊橋市は、概ね平坦な地形と穏やかな気候により農業生産に恵まれた地域である。農業産出額の内訳は、野菜57.2%、畜産25.9%、果実5.7%、花き5.0%、米4.1%で、野菜、畜産の割合が高く米の割合が低いことが特徴である。(注1)

(注1) 農林水産省 平成30年市町村別農業産出額(推計)より

【水稲】

本市の耕作面積は7,560haで、うち水田は2,470ha(本地2,330ha)であり、耕地面積の約3割と少ないことが本市の特徴である。(注2)

地域ごとにみると、西部は水田の1筆あたりの面積は広く、畦畔も小さいため、作業効率が良く、担い手が確保されている。一方、北東部は準山間地域で作業効率が悪いため、担い手の不足が顕在化しつつある。このため、集落の農家が法人を設立して対応する事例が出てきた。

(注2) 東海農政局 平成30年市町村別耕地面積(市町村別統計)より

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

本市の主力品種は「コシヒカリ」、「あいちのかおりSBL」、「あきたこまち」の3品種である。

水田の担い手農家は、農作業を受託するオペレータが主で、需要動向や集荷業者等の意向を勘案しながら、品種の早晚、移植と不耕起V溝直播のバランス、食味の向上などを考慮し、さらなる経営規模拡大と競争力のある米づくりを追求している。夏季の著しい高温により品質が低下することがあることから、施肥改善などの対策を進めるとともに、「こだわり栽培米」の取組みなど、消費者に選ばれる米づくりを推進している。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米は、愛知県経済農業協同組合連合会を通じた取組みが主であり、当面は出荷契約先の確保に困ることなく取組拡大が可能とされているが、本市においては、乾燥調製や荷受け環境が整っていないため、関係機関と調整を図りながら取組みを推進している。

平成30年産より生産数量目標の縛りがなくなったことから、飼料用米への取組みが平成30年産と比較し、約2割の減少となった。飼料用米の作付けを維持するため、3年間は比較的取組みが容易な主食用品種による飼料用米について支援し、徐々に収益性の高い多収品種へ誘導していく。全国での多収品種の取組状況は、平成30年産では飼料用米面積の50%までに達している一方、本市の飼料用米多収品種は5.6%と大きく遅れをとっているため、「もみゆたか」については、県の交付に加えて支援す

るとともに、「もみゆたか」以外の品種についても導入する取組みを支援していく。

イ 新市場開拓用米

内外の新市場の開拓を図る米づくりに対し支援していく。

ウ WCS用稲

稲作農家と需要者である酪農家が生産利用組合をつくり、専用収穫機やラッピングマシンを共同購入・共同利用することで取組みを進めている。

WCS用稲は品質にばらつきが出るのが課題となっているため、生産性及び品質の向上を図るために、専用品種の作付けを進めるとともに、不耕起V溝直播栽培、疎植栽培、乳酸菌添加、密苗栽培などの栽培技術の導入を促すことにより、取組拡大を図っていく。

エ 加工用米

地元の酒蔵が信頼性の高い市内産の米を用いてお酒を醸すことを検討している。地元の農家と酒蔵が連携した取組が安定するよう、生産性・品質向上に向けた取組を支援するとともに、複数年契約に基づいて取り組めるよう支援していく。

オ 備蓄米

国の方針に即した集荷業者等の割り当てに応じ、継続して取組んでいく。

(3) 麦、大豆

本市ではブロックローテーションが成立しておらず、麦・大豆の連作となることから、除草対策に苦慮するほ場が多い。このため、麦では、難防除対策やタンパク質含有量増加のための追肥、湿害対策の実施を促すことにより、収量増加と品質向上を図っていくとともに、作付面積を増やしていくことで、将来的なブロックローテーション導入を目指していく。また、大豆では、播種時期の遅れ等により、収量が愛知県の目標収量を大きく下回っていることから、播種時期の前進化や中耕・培土作業、狭畦栽培、湿害対策の実施により、収量の増加・安定化を目指していく。

(4) 高収益作物（園芸作物等）

水田を活用した野菜づくりについて、米の需給調整に資する取組みとして今後も作付面積の拡大を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

| 作物 | 前年度の作付面積 (ha) | 当年度の作付予定面積 (ha) | 2020年度の作付目標面積 (ha) |
|---------|------------------|--------------------|-----------------------|
| 主食用米 | 1,702.7 | 1,678.7 | 1,661.3 |
| 飼料用米 | 95.2 | 106.0 | 117.0 |
| 新市場開拓用米 | 2.4 | 2.5 | 2.6 |
| WCS用稲 | 55.0 | 55.1 | 55.2 |
| 加工用米 | 2.6 | 2.7 | 2.8 |
| 備蓄米 | 4.1 | 4.2 | 4.3 |
| 麦 | 12.9 | 15.0 | 16.0 |
| 大豆 | 11.3 | 11.5 | 12.0 |
| 野菜 | 3.7 | 5.0 | 6.0 |

4 課題解決に向けた取組及び目標

| 整理 番号 | 対象作物 | 用途名 | 目標 | 目標 | |
|----------|----------------|-------------------------|------------------|----------------------------------|--|
| | | | | 前年度（実績） | 目標値 |
| 1 | 小麦 | 小麦の品質向上 | 取組面積 | (30年度) 666a | (2020年度) 1,600a |
| 2 | 小麦、大麦 | 麦類の面積拡大 | 新規取組面積 | (30年度) 429a | (2020年度) 1,350a ※延べ面積 |
| 3 | 大豆 | 大豆の収量増加 | 取組面積 収量 | (30年度) 1,133a (30年度) 17kg/10a | (2020年度) 1,300a (2020年度) 142 kg/10a |
| 4 | 飼料用米 (多収品種) | 飼料用米多収品種の 支援 | 導入面積 ※もみゆたか以外 | (30年度) 1,329a | (2020年度) 1,600a |
| 5 | 飼料用米 | 飼料用米の生産性向 上 | 取組面積 | (30年度) 9,516a | (2020年度) 11,700a |
| 6 | WCS用稲 | WCS用稲の生産 性・品質向上 | 取組面積 | (30年度) 5,494a | (2020年度) 5,516a |
| 7 | 野菜 | 高収益作物（野菜） への助成 | 取組面積 | (30年度) 376a | (2020年度) 600a |
| 8 | 飼料用米 | わら利用（耕畜連 携）への助成 | 取組面積 | (30年度) 1,400a | (2020年度) 2,000a |
| 9 | 飼料用米 | 飼料用米の取組加算 (基幹作・多収品種) | 取組面積 | (30年度) 1,491a | (2020年度) 1,800a |

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり